

提 案 概 要

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 保健体育部会

1 提案テーマ 『自らの課題を明確にし、いきいきと取り組む相撲の授業』
～楽しさや喜びを味わうことのできる授業づくりを目指して～

2 単元(題材) 相撲

3 学年 第3学年

4 平成25・26年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

①学習目標と学習内容をより明確にした系統性のある指導と評価の工夫

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第7節 保健体育 第2 各分野の目標及び内容 [体育分野 第3学年] 2内容 F 武道

(1) ウ 相撲では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手を崩し、投げたりひねったりするなどの攻防を展開すること

6 実践に向けての課題意識

研究主題の趣旨にある「生徒一人ひとりが課題をもって自ら運動を行い、その楽しさや喜びを味わうことができるような学習を進める」を受け、「一人ひとりの課題を明確にすること」が重要と捉え、教え合い活動(言語活動)を活用させることを考えた。さらに授業の最後にあるカード記入にしっかり取り組ませることにより、より一層自分の課題を明確にし、その改善策を考えさせるようにした。

また、武道の授業にありがちなマイナスのイメージである「痛い・怖い」などを取り除くために、単元の早い段階から試合を多く取り入れ、武道の醍醐味でもある「勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう」ことのできる授業づくりを試みた。

7 実践の概要

本校の学区は以前から相撲が盛んな地域で、小中学生が参加できる相撲大会が催されている。この様な地域との関わりの中で本校では保健体育の武道の授業で「相撲」を扱ってきた。そのため、相撲に慣れ親しんでいる生徒が多く、相撲を行うことに対しての抵抗感は少ない。また、武道の必修化に伴い、女子生徒も相撲を行っているが意欲的に取り組んでいる。

本研究では2つの事を重点的に取り組んだ。一つ目は、一人ひとりの課題を明確にするために、アドバイスゾーンをつくり、試合後すぐにアドバイスゾーンでの教え合い活動(言語活動)を審判を含めた三人一組で行わせ、仲間からの客観的な意見を聞き自分の課題を明確にし、次の試合に臨ませた。また、授業の終わりに「課題と反省」のカード記入をさせ、次の授業に活かせるようにした。

二つ目は、楽しさや喜びを味わわせるために、相撲のメリットである「勝負の速さ」「勝敗の明確さ」「取り組みやすさ」「安全性」を活かし、早い段階で試合を行わせた。

8 成果と課題

アドバイスゾーンを設置したことにより「試合→話し合い→試合」の流れがスムーズになり、積極的な意見交換が行われ、課題を明確にすると共にその課題を解決するために自ら考え、意欲的に活動することにつながった。カードにおいても仲間の意見などを聞いていることから、いつも以上にしっかりと自分を分析した内容を記入できていた。また、早い段階で試合に取り組ませることにより、運動量の確保もでき、生徒がとてもしきいとした表情で授業に取り組んでいた。

今後の課題としては、一人ひとりの課題をより明確にするためや、教え合い学習が更に定着するための工夫として視聴覚教材を利用し、実際の自分の動きを繰り返し見せるなどの視覚からのアプローチも必要と感じた。また、その際に説明や準備などに時間をかけ過ぎず、運動量を確保しながら授業を展開していく工夫の必要性を感じた。

9 予想される協議の柱

- 武道の授業で言語活動を充実させる取組
- 指導と評価の一体化